

大橋川通信



2006.12
第16号
刊行/
大橋川コミュニティーセンター

第6回 大橋川周辺まちづくり検討委員会を開催



大橋川北岸より臨む松江大橋の夕景

大橋川周辺まちづくり基本方針 委員会としての結果まとまる

大橋川周辺まちづくり 検討委員会を開催

第6回大橋川周辺まちづくり検討委員会を、10月31日(火) 島根県市町村振興センターで開催しました。当日は、9月10日に開催した市民意見交換会の意見を反映した「大橋川周辺まちづくり基本方針(修正案)」について議論し、表現等いくつかの修正を加えた上で、提案を行うことが決まりました。また、今までに寄せられた代替案に関する意見を「代替案検討一覧」として整理しました。

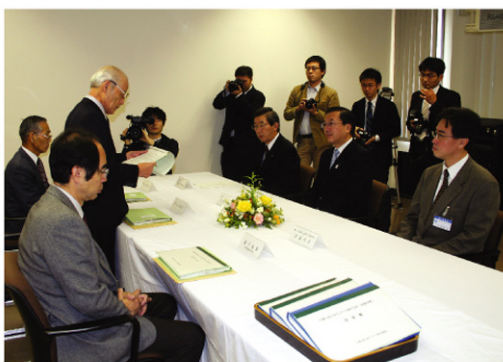
基本方針(委員会案) 提案書を提出

昨年11月より約一年間、委員会が主体となつて議論を進めてきた「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)」がまとまったことで、11月21日(火) 島田雅治委員長・門脇光男副委員長・桑子敏雄作業部会長から松江市長・島根県副知事・国土交通省出雲河川事務所長へ提案書が手渡されました。

提案書にあわせ、委員会や市民意見交換会で出された意見をまとめた「基本方針説明資料」も提出され、議論の経過が分かるようになります。

基本方針を受け 基本計画の検討に入る

まちづくりの理念や方針について定めた「大橋川周辺まちづくり基本方針」を基に、堤防の形状や背後地のまちづくり等、具体的な事項を定める「大橋川周辺まちづくり基本計画」の検討に入ります。委員会や市民意見交換会で出された意見の中で、基本計画の検討に係わるものについては、今後の委員会でも引き続き検討していきます。



基本方針(委員会案)を提案する島田委員長

過去の資料をお問い合わせ先

【大橋川コミュニティーセンター】

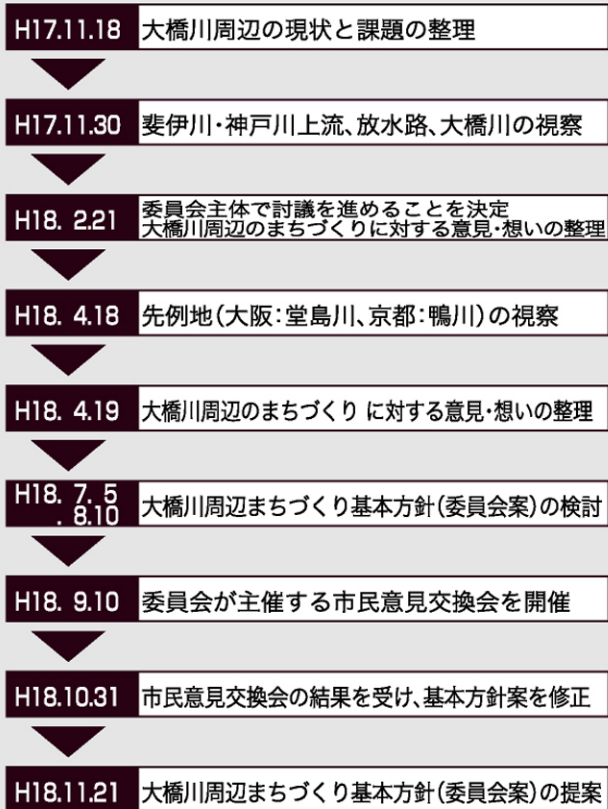
ホームページからもご覧頂けます。

<http://www.mabe.ne.jp/comisen>

大橋川周辺まちづくり基本方針

委員会案作成までの歩み

大橋川周辺のまちづくり基本方針(委員会案)作成



基本方針とは...

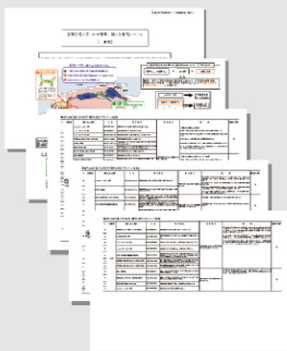
大橋川周辺のまちづくりがどうあって欲しいかといった「理念」や基本的に向かうべき「方針」を示すものです。



「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)」は、大橋川コミュニティセンターで閲覧できます。また、ホームページからもご覧いただけます。



大橋川周辺まちづくり検討委員会が出た意見191項目、市民意見交換会での意見118項目、ファックス等で寄せられた意見62項目を「基本方針説明資料」としてとりまとめました。



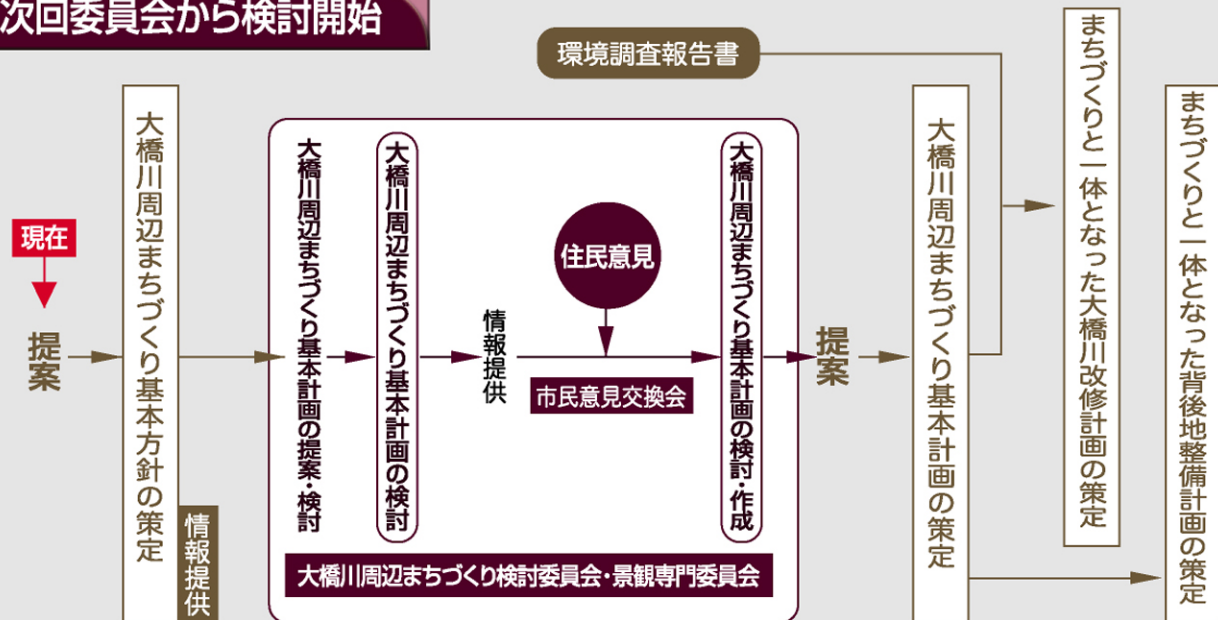
平成16年12月に国土交通省が「大橋川改修に関する具体的内容」を公表し、地元など68回の説明会を行い、主な質問と回答をまとめ公表していますが、これに加え、委員会や市民意見交換会で出された「代替案」に関する意見を、大橋川周辺まちづくり基本計画の検討に先立ち、項目毎に整理しました。今後も、基本計画の検討内容とあわせ、代替案の検討内容に関する情報も提供していきます。

大橋川周辺まちづくり基本計画

次回委員会から検討開始

基本計画とは...

堤防の形状や、背後地のまちづくり、橋梁のデザイン等について、具体的に示すものです。



大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)

委員会で出た主な意見

大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について委員から出た意見をご紹介します。

大橋川上流部の表現について

- 橋南は歴史・文化だけでなく、何か特徴のある斬新な新しいまちの息吹が感じられるような表現にしてはどうか。
- 橋北は、城下町の風情のあるまちであるが、京店・東本町など商店街もあり、個性ある「にぎわい」をつくっていかねばならないと思う。
- 松江の風情の核である大橋の風情が失われることのないよう、「親水の景づくり」の中でしっかりと「大橋の風情」を入れて欲しい。

大橋の架け替えについて

- 完成して70年以上経っている大橋・新大橋は、構造物としての安全性の問題もあり、両橋ともに架け替えを考えていかねばならないが、その場合でも、「風情」を損なわない事が重要である。
- 橋の架け替えに伴い、上流部は10年間程度は工事現場になる。その間に経済的な損失を受け、閑散としたまちになってしまうのではないかと。両岸のまちが、新しい息吹を感じて立ち上げられるか危惧している。
- 松江らしい景観は、工事中の進め方も含めて守っていくということを強調して欲しい。
- 今後の進め方で、実際の工事が進む中で協力し、議論しながら進める事が重要であると記載している。行政の説明責任を十分に果たしながら進めていって欲しい。

大橋川中流の農地について

- 「遊水の景づくり」では「水田」を「農地」という表現に変え、「河川・水路・農地・湿地(湿生地)」としてはどうか。

基本方針全般について

- 基本方針は、大橋川の改修を契機に、どのようにして松江のまちを今以上に良くしていくかというような夢と希望のあるものでなくてはならない。



代替案について 今までの意見を整理

委員会で出た主な意見

代替案検討一覧について委員から出た意見をご紹介します。

「代替案検討一覧」について

→裏面「代替案検討一覧について」を参照

- 結局、いつも改修は必要ないのではないか、という意見が出てくる。代替案が駄目なら駄目で、そのことを松江市民に納得させない限り、本気にならないと思う。
- 斐伊川放水路での分流量を増やす事は可能なのか。
- 大橋川改修を前提としたまちづくりと代替案の場合では別と思うが、並行して考えていくのか。
- 拡幅に対する代替案しか示されていないが、松江のまちにとって最も影響するのは堤防の高さである。
- 平成18年7月豪雨において、ダムと放水路が完成していた場合のシミュレーション結果を示して欲しい。

海面上昇への対応について

- 地球温暖化による水位上昇の危険性に対して、昭和47年災害の対策で話を進めることは、将来的にも不安があると思う。

「代替案検討一覧」について

これまでに寄せられた代替案に関する主な質問と回答について、改めて体系的に整理しました。



斐伊川上流・中流での代替案について

斐伊川上流・中流での代替案については、斐伊川神戸川の治水対策が、流域全体で分担して安全を確保するものであり、これ以上、上流・中流の分担を増すような代替案は実行不可能です。

松江市地域での代替案について

松江市地域での代替案については、まちづくり基本計画の骨格を固めていく段階で費用等を比較し、検討していきます。

大橋川の今昔

大橋川の見慣れた風景も時代と共に少しずつ姿を変えてきています。「大橋川の今昔」では、大橋川沿川の移り変わりをお宝写真と共に紹介しています。

上段の写真は、明治末期の大橋川の様子です。蒸気船や帆かけ船が行き交い、舟運で賑わった時代がうかがえます。明治、大正、昭和の初め頃まで、このような光景が見られ、物資輸送の中心は船に委ねられていました。西は、穴道湖を経て宍道・平田方面と、東は中海を経て米子・美保関方面と繋がっており、二時は大阪航路も就航していました。

現在、この辺りは両岸共に都市的な建物が連なる風景へと変化していますが、写真中央に見える中の島や背後に広がる山並みは、当時と変わらない様子を今に伝えています。

大橋川を行き交う
帆かけ船と蒸気船

明治末期 大橋川を往来する船舶



提供：松江郷土館

現在の様子



大橋川コミュニティセンター

【開館日】 年中無休(年末年始除く) 【開館時間】 9:30~16:00 【駐車場】 5台程度
〒690-0841 松江市向島町134-4
TEL(0852)28-3621・3622 FAX(0852)28-3623
E-mail:comisen@mable.ne.jp
ホームページ: <http://www.mable.ne.jp/~comisen>



*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。

周辺案内図

